京都市文化観光資源保護財団

会報

No.51

もくじ

京のよさをまもって⒁　「清水焼発祥の地 五条坂」
藤平陶芸社長　藤平　長一　P 4
古い寺に住んで㉘　妙法院執事長　多紀　頴信　P 6
京のみちを歩く⑾「東山七条から豊国廟」　P 7
目で見る京の文化財㉑「京の石造物」　P 8
京の伝統行事芸能⒁「松ヶ崎妙法と題目踊」
㈶松ヶ崎立正会会長　岩崎　正一　P 10
保護財団の活動　P 14

会報題字　理事長 佐伯　勇
表　紙　旧二条城関係石造物群
（京都市洛西　竹林公園）

会　報
No.51　63. 6. 10
編集・発行
財団法人　京都市文化観光資源保護財団
京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内
〒606 電話 075－752－0235（代）

募金にご協力いただき ありがとうございました

寄付者芳名録（敬称略）62.11.26～63.4.21

―法人及び団体の部―

〔特別会員〕

※株式会社第一勧業銀行	〈1,300万円〉
※任天堂株式会社	〈250万円〉
西武鉄道株式会社	〈200万円〉
ローム株式会社	〈200万円〉
※財団法人伝統文化保存協会	〈150万円〉

〔普通会員〕

※京阪コンクリート工業株式会社	〈43万円〉
※株式会社鶴屋吉信	〈33万円〉
※旅館松葉亭	〈22万円〉
※株式会社岩田	〈11万円〉
※株式会社吉田山荘	〈10万３千円〉

〔賛助員〕

※株式会社京都相互銀行秘書課	〈９万円〉
※株式会社山崎建設	〈９万円〉
※京都市洛西竹林公園観賞者	〈7万2千9百7拾7円〉
※株式会社中村楼	〈６万円〉
※トクデン株式会社	〈５万５千円〉
※東邦炭素工業株式会社	〈３万円〉

―個人の部―

〔特別会員〕

※伊砂利彦	〈170万円〉
※高橋政幸	〈45万円〉
※池田喆一	〈27万４千円〉
※丸山未棹	〈19万４千円〉
※岡本保止	〈18万２千円〉
※伊藤ナツエ	〈18万円〉
※田中正男	〈17万１千５百円〉
※竹内キミ子	〈15万５千円〉
※柴田二郎	〈15万円〉
※竹内孫兵衛	〈15万円〉
※高橋一男	〈14万７千円〉
※上野山志津子	〈14万円〉
※石川秀男	〈13万３千円〉
※佐藤昭三	〈11万円〉
※村田陶菀	〈11万円〉
※渡辺幸子	〈11万円〉
※三原慶三郎	〈10万８千円〉
※友田弘治	〈10万６千円〉
※嶋津峯眞	〈10万１千円〉
※赤松ふみ子	〈10万円〉
奥谷晟	〈10万円〉
※都築久美子	〈10万円〉

〔普通会員〕

※神崎順一	〈９万２千円〉
※加藤雅一	〈８万８千円〉
※大嶋真治	〈８万円〉
※奥崎一郎	〈８万円〉
※那田可つ	〈８万円〉
※岩佐静子	〈７万５千円〉
※安田孝夫	〈７万５千円〉
※児玉誠	〈７万２千円〉
※加来大忍	〈７万円〉
※西村良太郎	〈７万円〉
※甲斐幹	〈６万５千円〉
※辨官弘晃	〈６万３千円〉
※岩井貞三	〈６万１千円〉
※野田茂樹	〈６万円〉
※矢野芳子	〈５万９千５百円〉
※奥田芳男	〈５万６千円〉
※平野昭子	〈５万５千円〉
※青木文子	〈５万円〉
※今井憲一	〈４万７千円〉
※上田真一	〈４万６千円〉
※遠藤伊之助	〈４万４千円〉
※金井利夫	〈４万２千円〉
※平野和彦	〈３万７千５百円〉
※中野豊治	〈３万５千円〉
※前田ふみ	〈３万５千円〉
※西原寿子	〈３万４千円〉
※谷美千代	〈３万３千円〉
※舟木八重子	〈３万１千円〉
※山田順三	〈３万円〉
※野村鉄治	〈２万９千円〉
※伊藤昭	〈２万８千円〉
※木原滋	〈２万７千円〉
※小松好子	〈２万７千円〉
※田村彰敏	〈２万６千円〉
※寺嶋瑛	〈２万６千円〉
※盛田准子	〈２万６千円〉
※福島善孝	〈２万５千円〉
※梶村ふみ子	〈２万４千円〉
※渡辺きく	〈２万４千円〉
※西田實	〈２万円〉

〔賛助員〕

※奥村賢三	〈１万７千円〉
※並河百合子	〈１万６千円〉
※小川幸次	〈１万５千円〉
※金丸弘	〈１万５千円〉
※寺島共一	〈１万５千円〉
※山田庫市	〈１万５千円〉
※中山正子	〈１万２千円〉
※岸本幸子	〈１万１千円〉
※佐藤昭夫	〈１万５百円〉
※上田と志	〈１万円〉
※北村眞一	〈１万円〉
※長岡満	〈１万円〉
※細川満	〈１万円〉
※岡本直三	〈９千円〉
※久郷利子	〈９千円〉
※徳野博久	〈９千円〉
※小川利子	〈８千円〉
※平井治子	〈８千円〉
※池内俊夫	〈７千円〉
※奥野貴雄	〈６千円〉
※笹原美智子	〈６千円〉
※杉丸一美	〈６千円〉
※佐藤貞次	〈６千円〉
※西村孝一	〈５千５百円〉
※佐藤英太郎	〈４千５百円〉
※石田裕	〈４千円〉
※稲田芳子	〈４千円〉
※脇田芳子	〈３千５百円〉
佐伯美代子	〈３千円〉
※今井春美	〈２千円〉
西川豊子	〈２千円〉
坂本亘	〈１千円〉
田中繁春	〈１千円
宮後信子	〈１千円〉

（※印は、追加寄付の篤志者、寄付金額は累計額。なお、昭和63年４月21日以降の寄付者の方につきましては紙面の都合により今後順次紹介させていただきますので御了承下さい。）

ホテル・旅館など に募金箱を設置

当財団では、募金運動の一環として昭和57年から募金箱による募金協力の呼びかけをおこなっていますが、現在までおよそ378万円にのぼる募金が寄せられており、基金拡充への貴重な財源になっています。このたび、事務局では新たに300個の募金箱を作製し、京都府旅館環境衛生同業組合のご支援を得て京都市内の各ホテル、旅館等に設置し広く観光客の方々などへ改めて募金の協力を求めていくことになりました。新しく作製した募金箱は、高さ20㌢、幅7.5㌢、奥行き8.5㌢でこれまでより少しコンパクトになりました。

京のよさをまもりましょう！

―京の文化財をまもるこの運動への参加を あなたのまわりの方々にも呼びかけて下さい―

当財団では、現在５億円募金運動を全国的にすすめています。

京の四大行事をはじめとする京都の文化財をまもる５億円募金を達成するために皆様も金額の多少にかかわらずご協力をお願いいたします。

○新たに基金にご協力いただきます場合は、同封させていただいております納付書によりご送金下さい。

募金その他についてのお問いあわせは、当財団事務局まで

☎（075）752―0235㈹

京のよさをまもって（14）

清水焼発祥の地　五条坂

藤平長一

『この日こそながながながと待ちにけり五条坂に記念日のたち』『いきいきと記念碑のたつ五条坂弥生三月空みあげれば』昭和60年の３月30日に「清水焼発祥の地五条坂」と七代清水六兵衛先生の書が刻書されている記念碑の除幕式をあげることができた。『見あぐれば桜かざして碑のたちし五条坂はいよいよ華やぐ』独特の石文字が彫刻家清水九兵衛先生の真髄を示している。私は毎日今も、その文字を眺めて記念碑の前を過ぎる。今年の桜は遅かったけれども、五条坂の若宮八幡宮の入口のこの記念碑の上にも桜が咲いた。歴史的にこの五条坂をみてみると、清水焼が本格的に作り出されたのは、安土桃山時代の末、慶長年間に入ってからのことといわれている。古清水焼といわれる陶器は、その以後であり、茶の湯と深い関係を持って発展した。それを代表する陶工には、楽長次郎、仁清、乾山、頴川、木米、道八、周平等前期と後期にわたって活躍をした。年表によると、文禄５年音羽焼始まる。寛永元年亀亭焼おこる。寛永20年、仁清産寧坂に製陶。寛延元年和気亀亭五条坂に開窯、明和８年初代清水六兵衛五条坂に開窯天明８年奥田頴川五条坂に開窯、文化８年二代道八五条坂に窯を移す。文政11年清風與平五条坂に開窯と続々五条坂に開窯した。

明治の変革にはどうであったか。従来の京風の色絵陶磁器に西洋の新技術と材料を導入し、清水焼を一つの産業として発展させると共に、幹山傳七、和気亀亭、三浦竹泉、清風与平、清水六兵衛、高橋道八らの進取の精神にあふれた明治の陶工達は、大いに活躍した。昭和初期の世界恐慌の時に、私はこの清水焼の仕事に着手した。そして、戦争に入り統制経済によって、清水焼は全滅的打撃を受けた。その上、五条坂は強制疎開によって南側の街を失った。一度は五条坂の陶業地は職人もいなくなってつぶれてしまったが、戦後に立ち直ってすでに四十年余になる。

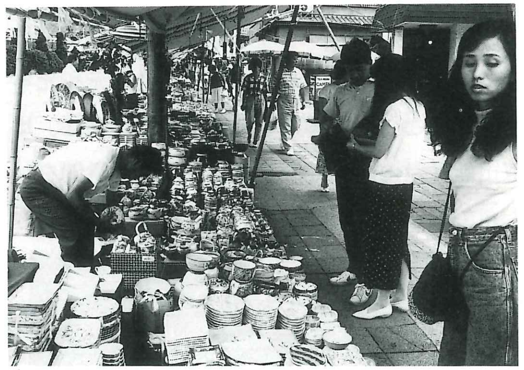
清水焼を地理的にみると五条坂一帯を源流にして南へのびる。大正のはじめに日吉地区、泉涌寺地区ができた。戦後、山科に清水焼団地、宇治に炭山団地ができた。各自陶業地は特徴をもっているが、五条坂は今も昔も清水焼の顔の役割をしている。

清水焼の発祥の地五条坂界隈と若宮八幡宮前の記念碑

伝統的な有名陶工が多い。大正の頃からはじまった夏の風物詩陶器祭を戦後直ちに復興して現在全盛を極めている。私はこの陶器祭運営協議会の会長をつとめて15年に及んでいる。『光悦のすみしみやこにわれもまた花瓶つくりの日日をおくれる』大正５年創業の藤平陶芸も創立70周年を迎えている。『先人のあゆみし足の音をきく五条坂に石碑(いしぶみ)のたつ』日々五条坂をのぼりくだりしていると江戸時代、明治、大正、昭和へと有名陶工無名のいろいろの焼きもの師たちの苦心のあとがしのばれてくる。それを追慕して『陶栄会創立30周年を記念し会員28名並びに関係有志一同ここに感謝の碑を建立す』と碑の裏面に彫書されている。陶栄会は、五条坂地区もその製造家、卸、小売の商人の団体で五条坂の経済、文化の発展につくし陶器祭運営協議会の母体になっている。この記念碑も陶栄会の30周年記念に建立された。私は会長をつとめて15年になる。これより前に昭和56年３月、五条坂陶栄会より『思い出の五条坂』が創立25周年記念に出版された。その時、京都新聞は大きく紹介してくれた。「五条坂の哀歓つづる」「土と共に歩んだ日々」と大きな見出しで熱筆をふるってくれた。この限定出版が大変人気を呼んで多くの人に読まれた。このままにしておけない、多くの人の哀歓を記念碑にしてのこすことにしたいということが記念碑設立の動機である。のぞきからくりやバナナのたたき売りでにぎわった弁天さんの夜店の楽しい思い出、強制疎開で古い家並みが次々にとりこわされた悲しい思い出をまとめたのが『思い出の五条坂』である。そして、昭和57年『五条坂陶工物語』が出版された。『ちかごろは聞くこともなしあの古都の心にしみる夕暮の鐘』街の姿も変った。ビルがつづいて建立された。昔の面影は片すみの裏通りにのこっている。これも21世紀へ進む姿、かならずしも昔の姿がよいわけではないが「清水焼発祥の地五条坂」の記念碑が大切になってくる。21世紀への姿が変化するにしたがって「思い出の五条坂」「五条坂陶工物語」の書物の意味が高くなってくる。

（藤平陶芸社長）

五条坂界隈には、つい近年まで数基の登り窯が点在していたという。（写真は筆者宅の登り窯）

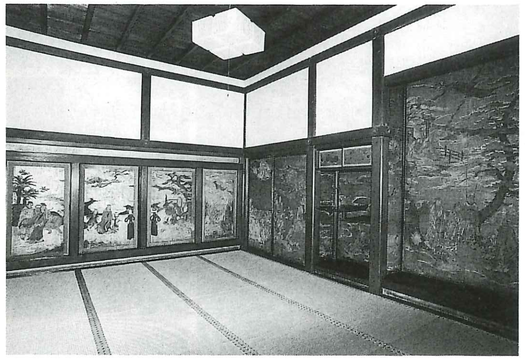


毎年８月７日から４日間、五条坂界隈では「陶器市」が開かれ、賑わう。

古い寺に住んで（28）

多紀頴信

京都の街は、古いものと新しいものとが調和した歴史都市でもあります。そのなかでも蓮華王院（三十三間堂）は南北に120メートルの長い御堂で、722年の星霜を経た木造建築の偉容に感動を憶えます。一方、妙法院はかつて建仁寺の北、綾小路に門室を構え江戸初期元和元年(1615)にこの地に移建されました。当院は、比叡山延暦寺の極官である座主職につく慣例をひらき、皇族や公家と政治的に直結することにもなりました。今でもこの両院の関係を知る人は少なく、その説明をするのに困ることがあります。後白河上皇が法住寺殿を建てられ、その境内に清盛に命じて蓮華王院が着工され長寛2年(1164)12月落慶供養が行われました。上皇は、信仰のとりわけあつかった熊野、日吉の両者を勧請され、新日吉社の検校職を日頃昵懇の妙法院昌雲に与えられたことから、実全、尊性と継承されてまいりました。後白河上皇が崩御され



大書院内部　狩野派の障壁画がおさめられている

> **妙法院**（みょうほういん）
>
> （京都市東山区妙法院前側町）
>
> 天台宗の門跡寺院で延暦寺に属する。延暦年間（782～805）伝教大師（最澄）によって延暦寺三千坊の一つとして草創されたと伝える。その後、寺地は名所にかわり、この地に移ったのは元和元年（1615）である。
>
> 当院は、明治維新まで代々法親王が住持され天明の大火の際は、光格天皇の皇后が一時ここに行啓されるなど皇室との関係も深く、文久3年（1863）三条実美公等七卿が長州藩士と当院で密議をこらし、ここから都落ちしたのは有名である。玄関、大書院（いずれも重要文化財）は、元和5年(1619)後水尾天皇中宮東福院（徳川秀忠の息女）入内の時、造営されたものを賜わったものと伝え、純然たる書院で桃山時代過渡期の風調を残している。また、庫裡は本瓦葺の豪壮華麗な桃山時代建築様式で、国宝に指定されている。

庫裡内部

るや、ご遺言により法住寺法華堂に葬られ蓮華王院は法皇の菩提を弔う追善の場として、すべて妙法院の門主にゆだねられるようになりました。また慶應3年頃の絵図によりますと七卿都落の図に（文久3年）大佛妙法院の宮と呼ばれ、当時蓮華王院を含めて大佛殿と同じ境内として築地塀（別名、太閤塀）に囲まれております。文祿4年(1595)9月秀吉が亡父母のため第一回の「千僧供養会」を盛大に行ったときの遺構が妙法院の国宝の庫裡だと伝えられております。

したがいまして、今日の妙法院は蓮華王院と共に文化財の修理、修復を一日たりとも休むことができない現状であります。3年程前には、重文である南大門がクレーン車により破壊されて修復するという事態をひきおこすなど、今年は「重文」後白河上皇の画像の修復、完成をみました。三十三間堂観音像剥落止め五百体の（南側）修復が終了。今年は湛慶作、国宝中尊坐像解体が3年間の予定で調査が始まりました。残りの五百体の修復まで、これから剥落止めが完全修復まで25年有余の歳月を必要とします。昭和の佛体修理には、叙勲をうけられた西村公朝先生、三谷好夫先生等木彫師が無心になって佛と向い合いこつこつとご苦労されたお蔭と感謝の念でいっぱいであります。

古い寺に住んで永い歴史の重みと同時に文化財の管理の重責とむずかしさを感ぜずにはいられません。

三十三間堂　千手観音像

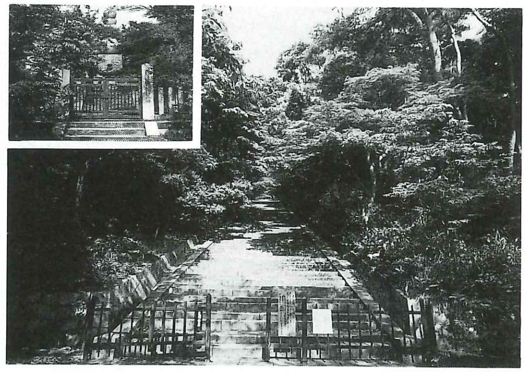
（妙法院執事長）

京のみちを歩く（11）

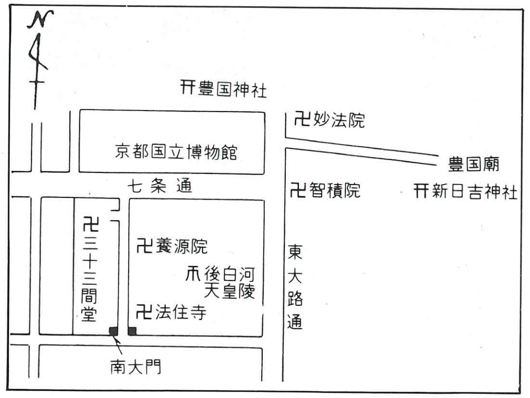
《東山七条から豊国廟》

「東山三十六峰静かに眠る丑三つ時……」で馴染み深い東山三十六峰は、北は比叡山から南は稲荷山までおよそ8㎞に及んでいるが、比叡山を除いては200ｍ前後のなだらかな山が多く、市街地に隣接していることも相俟って登る人は少なくない。豊国廟は、その峰の一つ〝阿弥陀ヶ峰〟の山頂にある。七条通の東端、智積院と妙法院の間にある坂道が参道である。俗に女坂と呼ばれるこの参道は、その名のとおり女子学生の往来が激しい。参道から斜めに入る道は新日吉神宮に通じる。酒造、医薬、縁結びの神として知られ、本殿前には一対の狛犬型の猿の像がある。これは、猿が神の使者であるといわれることによるものである。再び参道にひき返すと直ぐに豊国坦という旧豊国社の社殿址に出る。秀吉の死後、この壮大な社殿が建立されたが豊臣氏滅亡後、取壊された。眼の前に天を突くような感じで五百数十段の石段が一直線に延び山頂の五輪塔へと導く。山頂から遙か西山連峰まで見渡せる市内眺望は実に素晴しい。

―「京のみちを歩く」京都市文化観光局観光課発行より―



豊国廟への石段と頂上の五輪石塔

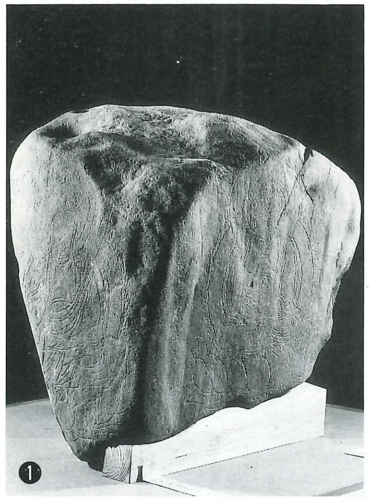


目で見る京の文化財 No.21

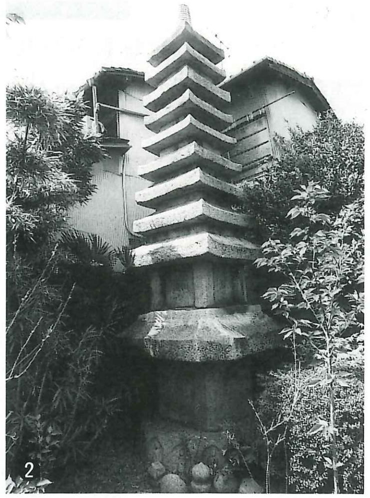
京の石造物

京都には、数多くの優れた文化財がありますが、なかでも石造物は人々の生活の中で親しまれ、また自然環境のなかで伝えられてきたものが多く、京都には全国でも有数の貴重なものが残されています。

今回の目で見る京の文化財は、石造物をテーマに主に石仏、石塔など中心にご紹介いたします。



①

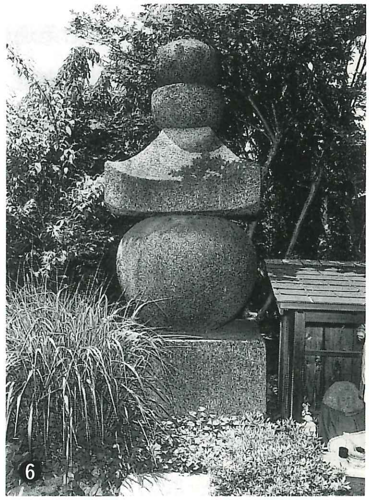


2

3

4

⑤



6

7

⑧

9

10

No.	名称	所在地	解説
①	線彫四面仏石	京都市北区紫野今宮町・今宮神社	約60cmの自然石の四方に阿弥陀・釈迦・薬師・彌勒の座像を線彫、紀年銘がある。重文。
②	引接寺塔婆	京都市上京区千本通盧山寺上ル・引接寺	至徳3年（1386）十重塔で、紫式部の供養塔といわれ、高さ約6ｍ基礎に四方仏をあらわし銘から勧進による造塔とわかる。重文。
③	弥勒仏及両脇侍立像	京都市左京区岡崎円勝寺町・㈶藤井斉成会	東魏天平2年（535）中国から伝来の三体釈迦立像で、台座に造像の銘がある。重文。
④	来迎院三重塔	京都市左京区大原来迎院町・来迎院	鎌倉前期高さ約2.8ｍで鎌倉時代の古式をよく伝え、保存状況がよい。重文。
⑤	高山寺宝篋印塔	京都市右京区梅ケ畑栂尾町・高山寺	鎌倉期高さ約2.4ｍでこの種の石塔では古式をよく伝えている。重文。
⑥	安楽寿院五輪塔	京都市伏見区竹田畑町・安楽寿院	弘安10年（1287）高さ約3ｍで鎌倉中期の形式を伝え、銘から供養塔とわかる。重文。
⑦	阿弥陀如来及両脇侍像	京都市上京区千本通上立売上ル・石像寺	元仁2年（1225）鎌倉初期の傑作で、中尊の阿弥陀如来座像は、高さ1.2ｍ開眼供養の銘がある。重文。
⑧	狛　　犬	京都市左京区鞍馬本町・由岐神社	鎌倉期中国からの献上物と伝えられ、阿吽（あうん）の対で子犬を抱いて子孫守護の姿をみせているところに特徴がある。重文。
⑨	八坂神社石鳥居	京都市東山区祇園町・八坂神社	正保3年（1646）高さ9.5ｍ明神鳥居で、有栖川宮熾仁親王筆の額を掲げ、石鳥居として最大のものといわれる。重文。
⑩	旧二条城関係の石造物群	京都市西京区大枝北福西町・京都市竹林公園	地下鉄烏丸線建設工事により発掘されたもので、旧二条城の石垣に使われていた石仏、石塔など361点で、現在竹林公園で展示されている。京都市指定。（表紙写真掲載）

参考文献
○「京都の石造美術」川勝政太郎著（昭和47年）木耳社
○「京都市の文化財」（第１集）京都市文化観光局文化財保護課発行

京の伝統行事芸能（14）

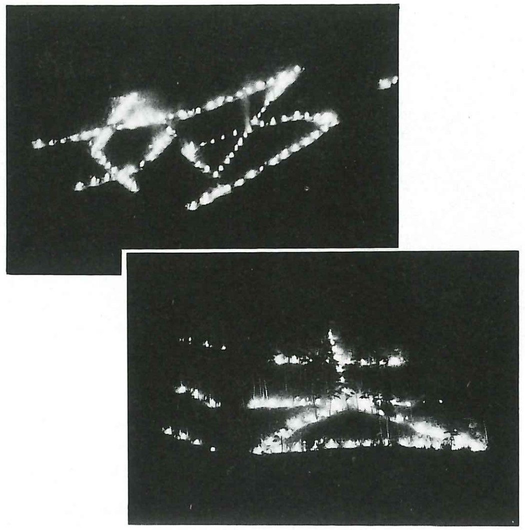
松ヶ崎妙法と題目踊

京都市左京区松ヶ崎では、毎年８月16日夜、妙法の送り火と題目踊がおこなわれます。

妙法の送り火は、松ヶ崎西山（万燈籠山）に妙、松ヶ崎東山（大黒天山）に法の字が、それぞれ点火されます。その由来は、山の麓の涌泉寺の寺伝によれば、当寺が鎌倉時代末期の徳治２年（1307）日像上人の教化によって天台宗から法華宗に改宗した際、日像が松ヶ崎西山に妙の字を書いて点火したものであるといい、法は涌泉寺の末寺下賀茂大妙寺二祖日良が江戸時代初期に松ヶ崎東山にかいたことがはじまりといわれる。なお、妙、法の二字が同時につくられたものでないことは、妙が法の左に位置することからでも推定され、さらに文献によってこの送り火は江戸時代初期には行われていたことがうかがえる。

また、題目踊は涌泉寺境内において行われ、踊りは、男女が団扇を手にして太鼓のリズムに合わせて「法法」「蓮華経」「七遍返し」「難陀」

松ヶ崎妙法送り火の点火風景



松ヶ崎妙法送り火

という四番の音頭を輪になって踊るもので、中世の芸能の面影を色濃く伝えている素朴な芸能である。この踊りの起源は、徳治元年（1306）時の住職実眼僧都がお盆に法華経を教導すると村民がことごとく法華の信者となったので、歓喜のあまり踊躍して自ら太鼓を打ち「南無妙法蓮華経」を唱えると、列座の村民がこれにあわせて踊ったことがはじまりであると伝えられる。なお、題目踊の後にさし踊がおこなわれ、これは近世になって流行した盆踊りで、広く松ヶ崎一帯の人々によって踊られたものである。

これら松ヶ崎に伝わる伝統行事芸能は、地元の人達の努力と熱意により保存継承されています。

◇松ヶ崎妙法送り火

8月16日　午後８時10分点火

題目踊・さし踊

8月15日　午後８時30分頃　涌泉寺

8月16日　午後９時頃　　　〃

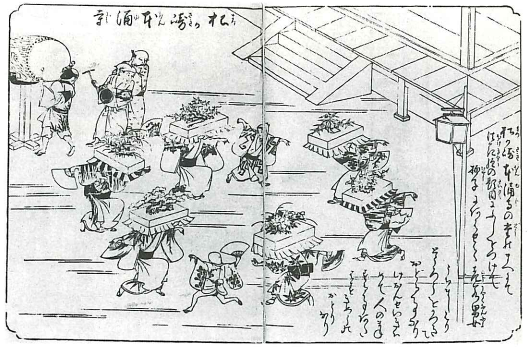
松ヶ崎題目踊

岩　崎　正　一

松ヶ崎題目踊は、鎌倉時代末期、徳治２年（今から680年程前）に始まったといわれ、古い形式を伝える盆踊で知られている。

松ヶ崎では、この踊を松ヶ崎郷土の重要な年中行事として、当時の村政を司どる各層の座役（庄屋、役前、宮座、中老、若衆）及び老若男女の一般村人こぞって参加してきた。踊の運営については、村から若衆にまかされその準備、進行等一切、若衆がとりしきっていた。

草創当初は、盆の16日の夜一晩の催しであったが、前日の15日の夜にも催されるようになった。15日は、「ならし」と称し16日の本番の練習といった意味があったらしい。15日は、各座の席次を確認する為の「座改め」の日でもあり、当日の夜各座役が寺の本堂に参集して、確認の盃をする儀式が執り行なわれた。これが終わると全員題目踊に参加するのである。



松ヶ崎題目踊『花洛細見図』～成立元禄17年（1704）～より

昭和６年、松ヶ崎村は京都市に編入になり村役場や前述の座制度も廃止されたが、村時代の伝統行事、芸能等を継承保存するための組織として、当時の村民によって「松ヶ崎立正会」を結成し、題目踊、さし踊、妙法送り火などの伝統行事、芸能を継承した。

松ヶ崎立正会の構成は東町、堀ノ町、辻ノ町、中ノ町、西ノ町、川ノ町の六町組が参加し、うち二組が輪番により踊の準備進行の当番として踊の運営にあたっている。

毎年７月から８月上旬にかけて音頭、太鼓打ちの練習を行ない８月10日、11日の両日、音頭、太鼓打ち、踊方の総合練習会をもち15日、16日の公開本番にそなえるのである。

（財団法人松ヶ崎立正会会長）

松ヶ崎題目踊

京の主な年中行事（6月～9月）

6月

20日　**鞍馬竹伐り会**（午後2時）　鞍馬寺
30日　**夏越祓**　地主神社・平安神宮
貴船神社・車折神社
上賀茂神社・ゑびす神社

7月

7日　**七夕祭**　北野天満宮
（午前10時・午後1時）
7日　**精大明神例祭**　白峰神宮
（けまり　午後3時
精大明神祭　午後4時
七夕小町踊　午後4時30分）
7日　**貴船の水まつり**（午前10時）貴船神社
9～12日　**陶器供養法要と陶器市**　千本釈迦堂
17日　**御田祭**　松尾大社
（午前9時30分～正午）
22・23日　**辨天祭**　長建寺
（22日　宵祭
23日　大祭　午前10時～）
22・23日　**本宮祭**　伏見稲荷大社
（22日　宵宮祭　午後6時
23日　本宮祭　午前9時）
25日　**鹿ケ谷カボチャ供養**　安楽寺
（午前9時～午後3時）
26・27日　**きゅうり封じ**　五智山蓮華寺
（26日　宵祭　正　午～午後9時
27日　本祭　午前6時～午後6時）
31日　**千日詣り**　愛宕神社
（午後9時～翌午前2時）
31日　**茅の輪の神事**（午後11時～）御香宮神社
31日　**御手洗祭**　下鴨神社
（午前5時～午後10時）

8月

6日　**夏越神事**（午後7時）　下鴨神社
7～10日　**若宮陶器大祭**　五条坂一円
7～10日　**六道まいり**　六道珍皇寺
8～10･16日　**六波羅蜜寺万灯会**　六波羅蜜寺
（法要　午後8時）
8～12･16日　**六道まいり**　千本釈迦堂
9～16日　**精霊迎え万灯供養会**　壬生寺
14～16日　**東大谷万灯会**　東大谷
（午後6時～9時）
14～16日　**万灯祭**　車折神社
（早朝～午後10時）
15日　**花背松上げ**（午後9時頃）　花背八桝町
15・16日　**松ケ崎題目踊**　松ケ崎涌泉寺
（15日　午後8時30分～9時
16日　午後9時～9時30分）
16日　**大文字五山送り火**　各五山
（午後8時）
16日　**精霊送り万灯流し**　嵐山
（日没～午後8時30分頃）
23日　**久多宮の町松上げ**　久多
（午後9時頃）
24日　**広河原松上げ**（午後9時頃）広河原
24日　**雲ケ畑松上げ**　雲ケ畑中畑町・出谷町
（午後8時頃）
24日　**久多花笠踊**（午後9時）　志古淵神社
27日　**修学院紅葉音頭**　修学院離宮前
（午後8時）

9月

1日　**八朔踊**（午後8時）　江文神社
4日　**八朔祭**　松尾大社
8・9日　**烏相撲と重陽神事**　上賀茂神社
（8日　内取式　午後8時
9日　重陽の神事　午前10時）
8日　**上賀茂紅葉音頭**（午後7時）　上賀茂神社
15日　**櫛(くし)祭**（行列正午出発）安井金比羅宮
15･18～23日　**萩まつり**　梨木神社
21～25日　**お砂踏法要**　今熊野観音寺
（午前9時～午後5時）

北野天満宮　七夕祭

六道珍皇寺　六道まいり

修学院紅葉音頭

櫛　祭

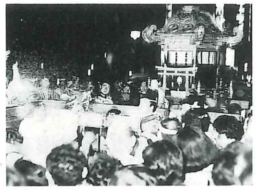
※都合により行事日程が変更される場合があります。

祇　園　祭

□祇園祭の主な行事予定

7月1日　吉符入（各山鉾町）
2日　くじ取り式（午前10時市会議場）
10日　お迎え提灯（午後5時　八坂神社～河原町四条～市役所～寺町通～八坂神社）
10日　神輿洗（午後8時　四条大橋）
10～13日　鉾建・鉾曳初め（各鉾町）
13日　長刀鉾稚児社参（午前11時　八坂神社）
13～14日　山建て（各山町）
16日　宵山
16日　あばれ観音（午後11時　南観音山）
16日　日和神楽（午後11時　各鉾町～八坂神社）
17日　山鉾巡行（午前9時　四条烏丸出発）
17日　神幸祭（午後4時　八坂神社～四条寺町御旅所）
24日　花傘巡行（午前10時　寺町御池出発～寺町四条～八坂神社）
24日　還幸祭（午後5時　四条寺町御旅所～八坂神社）
28日　神輿洗（午後8時　四条大橋）
29日　神事済報告祭（午後3時　八坂神社）

お迎え提灯


神　輿　洗

稚児社参

南観音山あばれ観音

□主な公開日と場所

8月7日（午後8時）　円覚寺六斎念仏（右京区水尾円覚寺）
10日（午後8時30分）　壬生六斎念仏（中京区壬生寺）
16日（　〃　）　中堂寺六斎念仏（中京区壬生寺）
16日（午後9時）　西方寺六斎念仏（北区西賀茂西方寺）
22日（午後8時）　小山郷六斎念仏（北区烏丸鞍馬口上善寺）
22日（午後8時）　桂六斎念仏（西京区桂地蔵寺）
23日（午後8時）　嵯峨野六斎念仏（右京区嵯峨野阿弥陀寺）
25日（午後8時）　吉祥院六斎念仏（南区吉祥院天満宮）
28日（午後7時30分）　梅津六斎念仏（右京区梅津梅宮大社）
31日（午後8時）　久世六斎念仏（南区久世蔵王堂光福寺）

回京都古楽保存会主催　雅楽舞楽公開演奏会

日時　9月12日（月）　午後7時
場所　京都会館第2ホール　—入場無料—

保護財団の活動

昭和62年度
文化観光資源保護事業補助金交付
祇園祭、大文字五山送り火など
88件に総額7,848万円を助成!!

去る３月10日に開催された第38回理事会評議員会で昭和62年度文化観光資源保護事業に対する補助金の交付を決定した。

金利の引き下げなどにより厳しい財政状況であったが、前年度に比べ26万円の増額となっている。この補助金は全国の会員の皆様からお寄せいただいた寄付金約15億２千万円（63.3.末現在）の基金をもとに、学識経験者で構成する文化財専門委員会で選定された保護事業に対し助成をおこなっているものである。

今回の補助金交付内容は、次のとおり。

１．四大行事保存執行に対する助成

10件　　補助金 4,853万円

—対　象—

○葵祭行列執行
○祇園祭山鉾巡行執行
○祇園祭山鉾修理
○大文字五山送り火点火執行
○大文字五山送り火火床整備（５件）
○時代祭行列執行

２．文化観光財保護事業に対する助成

34件　　補助金 1,930万円

○建造物の部　　17件

—対　象—

—曼殊院弁天堂—　天保４年（1833）に再建されたもので、今回全面的に解体修理工事がおこなわれた

—六曲一双屏風　「花鳥図」蔵三時知恩寺—狩野永納の作品で今回破損が著しいため修理された

大徳寺総門半解体修理工事・大聖寺書院床修理工事・興徳寺本堂屋根葺替工事・賀茂御祖神社摂社河合社舞殿六社透塀屋根葺替工事・曼殊院弁天堂解体修理工事・真正極楽寺書院屋根葺替工事・要法寺本堂屋根葺替工事・新日吉神宮拝殿屋根葺替工事・西行庵母屋屋根葺替工事・菅大臣神社本殿屋根葺替工事・教王護国寺食堂柱根継及び地覆修理工事・梅宮大社東門屋根葺替工事・車折神社本殿半解体修理及び拝所屋根修理工事・斉明神社拝殿屋根葺替工事等・仁和寺宸殿及び渡り廊下屋根葺替工事・円覚寺本堂屋根葺替工事・大原野神社末社若宮社屋根葺替工事

○美術工芸品の部　　９件

—対　象—

真如寺書院障壁画紙本淡彩「雀朝顔図」「西湖図」修理・慈照院六曲一隻屏風金地著色「古梅図」修理・三時知恩寺六曲一双屏風紙本著色「花鳥図」修理・禅林寺書院鶴寿台襖絵紙本淡彩「松鶴図」修理・迎稱寺木造三面八臂不空羂索観音菩薩像修理・本願寺山科別院本堂障壁画紙本金地著色「松竹梅図」「花木図」「孔雀図」修理・善徳寺本堂障壁画紙本墨画「釈迦三尊像」修理・正法寺木造聖観音立像修理・法伝寺木造阿弥陀如来座像修理

○防災施設の部　　１件

—対　象—

妙心寺土蔵屋根葺替工事

○環境整備の部　　７件

—対　象—

賀茂別雷神社本殿周囲築地塀屋根葺替工事・北野天満宮楼門東側築地塀修理工事・勧修寺表門南側築地塀修理工事・玉鳳院鐘楼東側土塀修理工事・養源院表門脇土塀修理工事・(財)霊山顕彰会霊山一帯及び各招魂社周辺整備工事・(財)京都古文化保存協会松毛虫駆除事業

３．伝統行事、芸能保護事業に対する助成

44件　　補助金 1,065万円

○行事の部　　13件

—対　象—

嵯峨お松明・賀茂競馬・藤森駈馬・糺の森流鏑馬・鞍馬竹伐り会・松上げ（３件）・烏相撲・ずいき祭・北白川高盛御供・鞍馬火祭・日野裸踊

○芸能の部　　31件

—対　象—

けまり・雅楽（３件）・念仏狂言（４件）・六斎念仏（11件）・やすらい花（４件）・久多花笠踊・八瀬赦免地踊・松ケ崎題目踊・鉄仙流白川踊・紅葉音頭（２件）・大原八朔踊・番匠儀式

昭和62年度
伝統行事芸能功労者表彰

—法人２社、個人11名の
基金募金協力者に感謝状を贈呈—

長年にわたり京都の伝統行事、芸能の保存継承につとめてこられた功労者と当財団の基金に多額の寄付金を寄せられた協力者に対し、去る３月10日京都都ホテルにおいて開催された第38回役員会の席上において当財団会長の今川京都市長と佐伯理事長から一人ひとりに表彰状、感謝状並びに記念品が手渡された。

受賞者は、次のとおり。（敬称略・順不同）

□伝統行事・芸能功労者

神田新三（嵯峨御松明保存会）・向畑義一（花背松上げ保存会）・徳平京子（京都舞楽会）・

佐師群壹（京都古楽保存会）・橋詰一雄（神泉苑大念佛狂言講社）・吉田弘（千本えんま堂大念佛狂言保存会）・松本末三（嵯峨大念佛狂言保存会）・内藤三紀夫（小山郷六斎保存会）・井元剛（千本六斎会）・北村弘（嵯峨野六斎念仏保存会）・西田邦一（西方寺六斎念仏保存会）・太田竹治郎（川上やすらい踊保存会）・今村鶴之助（玄武やすらい踊保存会）・藤井正弘（上賀茂やすらい踊保存会）・辻光男（久多花笠踊保存会）・岩崎正一（松ヶ崎題目踊保存会）・渡辺きく（修学院紅葉音頭保存会）・折出博（番匠保存会）

□文化観光資源保護協力者

（団　体）

ダイキン工業株式会社・西武鉄道株式会社

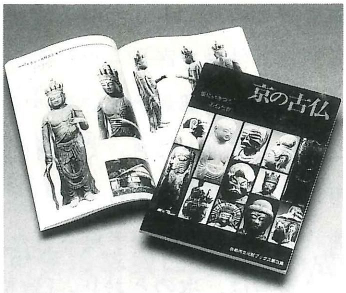
（個　人）

綱島輝雄・村田陶苑・田尻正雄・土手修・三原慶三郎・荒川昭・中村正三・佐藤昭三・友田弘治・嶋津峯眞・奥谷晟

京都市文化財ブックス第３集

「京の古仏」

～里にいきづくみ仏たち～



古くから地域の人々により守り継がれてきた仏像を紹介したもので、写真や調査記録にもとづいて詳しく解説し仏像の用語解説も掲載しています。Ｂ５判85ﾍﾟｰ。

会員の皆様でご希望の方は、当財団事務局にて１部1,000円で頒布しております。又、郵送をご希望の方は、別に送料250円（切手可）を同封のうえ、現金書留にてお申し込み下さい。

なお、京都市文化財ブックス第1集「京都の木」（1,000円）、第2集「伏見の酒造用具」（1,500円）もあわせ頒布しております。ぜひご一読下さい。

第51回　文化財特別参観のご案内

“大報恩寺”と“北野天満宮”

今回は、長い歴史のなかで庶民に親しまれてきた大報恩寺（千本釈迦堂）と北野天満宮を訪ねます。

回参観日時　昭和63年９月10日(土)
午後２時（参観時間約２時間）

回対 象 者　財団募金協力者(会員)とその家族１名（計２名まで）

回申込方法　住所・氏名・年令を記入し、返信用切手60円分を同封の上、封書によりお申し込み下さい。

回申 込 先　〒606 京都市左京区岡崎最勝寺町
京都会館内
京都市文化観光資源保護財団 宛

回参加費不用

※お問いあわせは、財団事務局まで。なお、参加ご希望が多い場合は、制限することがあります。

編集後記

毎回、いろいろな文化財をご紹介していますが、今回は文化財のなかでもあまり知られていない石造物をとりあげました。日頃、社寺などを訪れても何気なく見過ごしてしまうことが多いのですが、それぞれ人々の生活と自然環境のなかでまもられてきたものが多く、興味をひきます。皆様も機会があれば一度ごゆっくりご覧になられてはいかがですか。

――差別をなくして明るい社会をつくろう――